7）ベニズワイ資源調査

本田　夏海

目的

ベニズワイは境港の主要水揚げ物の１種である．本種の主漁場である大和堆西方及び隠岐諸島北方海域は，1999年の日韓漁業協定発効と同時に日韓暫定水域となり，当海域は日韓での操業ルールが確立されていないため，過剰な漁獲圧がかかり，資源の悪化が懸念されている．本調査では適正な資源管理方策の策定に向けた基礎資料を収集することを目的とする．

方法

①漁獲情報調査

境港で水揚げされた本種の水揚げ伝票を整理し，漁獲量及び金額を集計した．

②生物調査

境港において我が国EEZ及び日韓暫定水域操業船から漁期中（９月から翌年６月）月一回，北朝鮮海域操業船からは５月と11月に魚体を購入し，それぞれ甲幅，体重，鉗幅を測定した．

結果

①境港における1978-2003年の着業隻数及び漁獲量推移を図１に，１航海あたりの漁獲量を図２に，銘柄別の月平均単価を図３に，操業規模別の月別漁獲量推移を図４に，1988年-2003年の銘柄別漁獲割合を図５に示す．2003年の操業隻数は2002年６月に３隻減船し，16隻であった．2003年３月にはさらに１隻が減船し，15隻となった．境港における漁獲量は減少傾向にあり，2003年は8,113トン（前年比94%）であり，2002年に引き続き10,000トンを割り込んだ．

月別の１航海あたりの漁獲量は前半（１-６月）は平年並みで推移したものの，後半は漁獲の悪化した2001年，2002年並みの低調なスタートであった．2002年は年末に漁獲の回復が見られたが，2003年は，高水準の漁獲が期待される北朝鮮出漁許可保有船の漁獲が低迷したため，年末まで低水準で推移した．

価格面から見てみると，漁獲のふるわなかった11月以降，単価の高騰が見られた．12月の平均単価は銘柄「大」で698円/kg（前年462円/kg），銘柄「中」で448円/kg（同339円/kg），銘柄「小」で344円/kg（259円/kg）で前年の1.3-1.5倍となった．特に2003年は銘柄「中」，銘柄「小」においても単価が高騰したことが特徴的で，境港の加工業への供給量が不足している現状がうかがわれる．

銘柄別の漁獲量は前年より，若干銘柄「大」，銘柄「中」の割合が増加したものの，依然，銘柄「小」が７割以上を占めていた．

②生物調査から求めた水揚物の甲幅組成を図６に示す．我が国EEZ及び日韓暫定水域操業船の水揚物では６月測定船を除き，漁獲の主体は10cm以下の小型個体であり，漁獲物の８割を占めた．大型個体が比較的多かった６月測定船は山陰沖合である（他は主に大和堆で漁獲されたもの）．一方，北朝鮮海域操業船の水揚物では５月は10-11cm，11月は10cm以下の個体が最も多かった．12cm以上の大型個体も５%程度あり，我が国EEZ及び暫定水域内に比べ，大型個体の割合が多い傾向にあった．なお，測定結果は日本海区水産研究所に送付した．

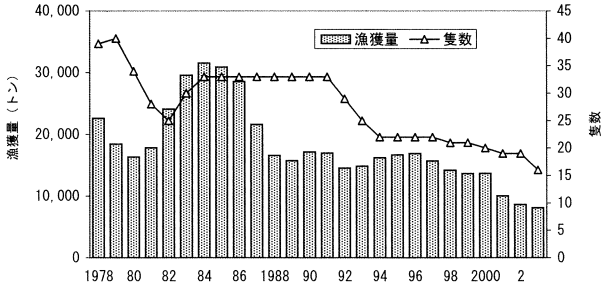


図１　ベニズワイ漁獲量の年推移（境港水揚げ）

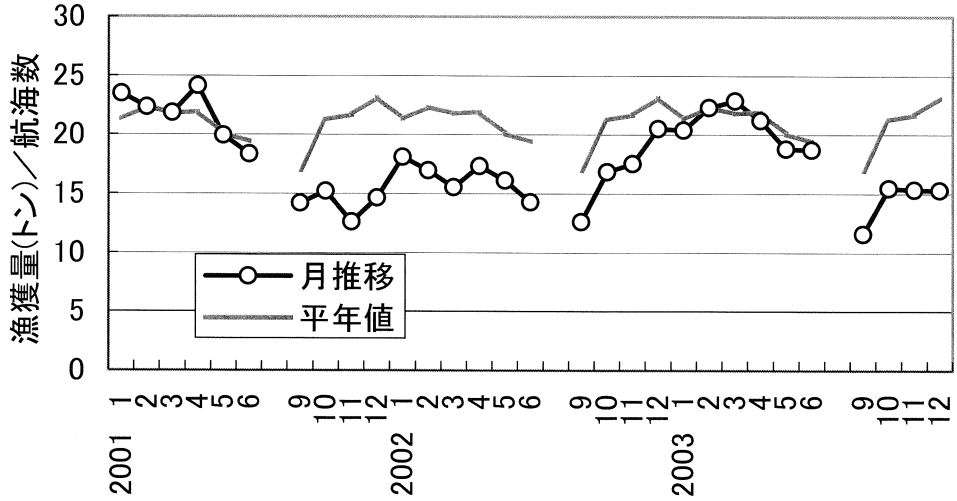


図２　１航海あたりの漁獲量

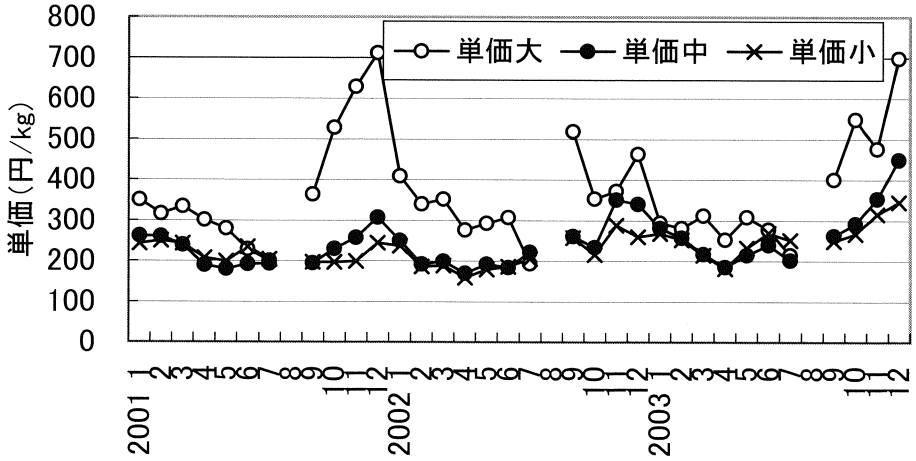


図３　銘柄別の月平均単価の推移

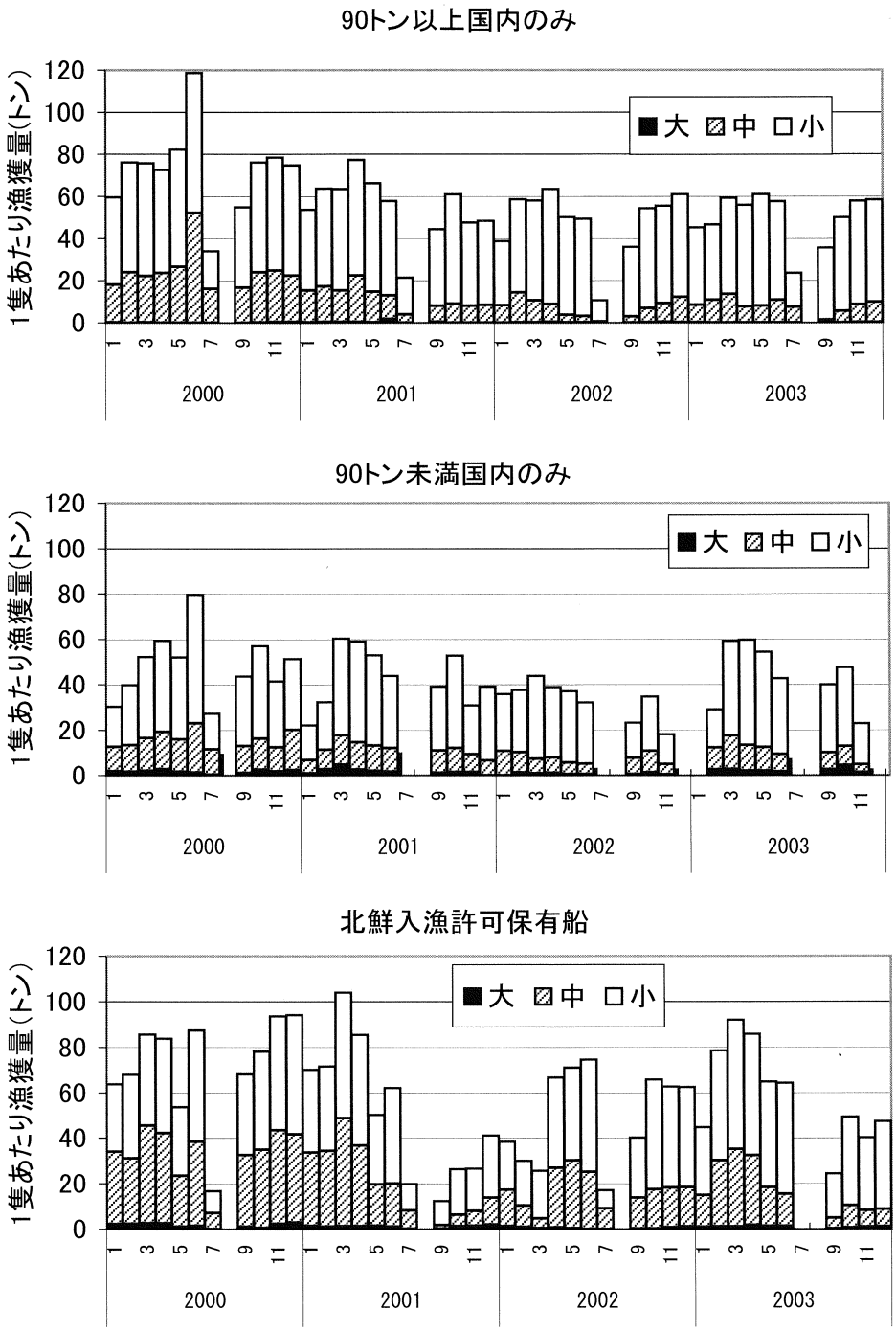


図４　海域別漁船規模別の１隻あたりの漁獲量の推移

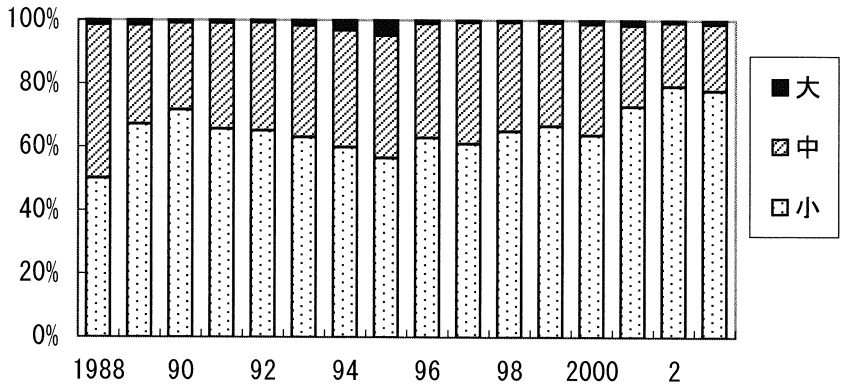
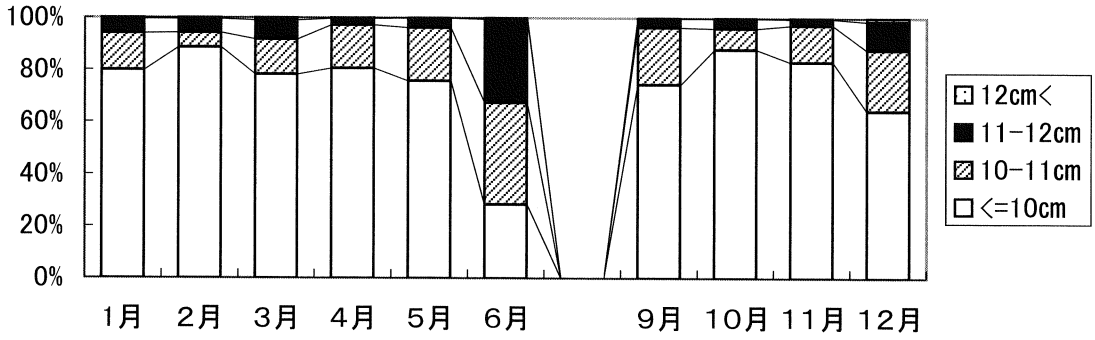


図５　ベニズワイの銘柄別漁獲割合

我が国EEZ及び暫定水域操業船



北朝鮮海域操業船

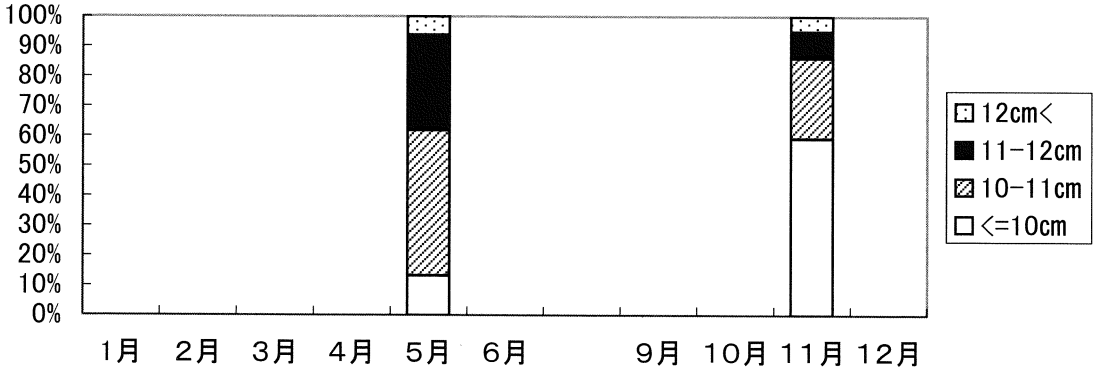


図６　境港に水揚げされたベニズワイの測定船における甲幅組成